

成田高速鉄道アクセス株式会社の第三種鉄道事業申請及び 京成電鉄株式会社の第二種鉄道事業申請について

1 申請者の概要

[] 第三種鉄道事業

- (1) 申請者 成田高速鉄道アクセス株式会社 代表取締役 興村 猛
- (2) 所在地 千葉県成田市三里塚字御料牧場1番2
- (3) 会社設立日 平成14年4月25日
- (4) 資本金 978百万円(平成14年4月25日現在)
(内 訳) 新東京国際空港公団 51.1%、千葉県 43.5%、
京成電鉄(株) 5.1%、日本航空(株) 0.1%、全日本空輸(株) 0.1%、
(株)日本エアシステム 0.1%

[] 第二種鉄道事業

- (1) 申請者 京成電鉄株式会社 取締役社長 大塚 弘
- (2) 所在地 東京都墨田区押上一丁目10番3号
- (3) 会社設立日 明治42年6月30日
- (4) 資本金 24,286百万円(平成14年3月31日現在)
(内 訳) 日本生命保険相互会社 4.72%、(株)UFJ銀行 3.95%
(株)日本興業銀行 3.95%、中央三井信託銀行(株) 3.68%
三菱信託銀行(株) 2.33%、日本トラスティ・サービス信託銀行(株) 2.05%
ほか

2 申請の概要

- (1) 申請年月日 平成14年5月31日
- (2) 事業種別 第三種鉄道事業及び第二種鉄道事業(旅客運送)
- (3) 区 間 印旛日本医大駅~成田空港高速鉄道線接続点(第三種鉄道事業者)
京成高砂駅~成田空港駅(第二種鉄道事業者)
- (4) 営業キロ 51.4km(京成高砂駅~成田空港駅)
建設キロ 10.7km(印旛日本医大駅~成田空港高速鉄道線接続点)
- (5) 単・複の別等 複線(一部単線)、軌間1,435mm、
直 流 1,500V(架空線方式)
- (6) 駅 数(京成電鉄) 7駅(京成高砂、新鎌ヶ谷、千葉ニュータウン中央、
印旛日本医大、成田ニュータウン北(仮称)、
空港第2ビル、成田空港)
- (7) 運転計画(京成高砂~成田空港間、終日)
 - ・スカイライナー 下り30本/日、上り31本/日(10両編成)
 - ・特 急 上下とも各46本/日(8両編成)
 - 所要時間:日暮里~空港第2ビル間 36分(スカイライナー)
- (8) 建設費 126,131百万円
- (9) 開業予定 平成22年度

3 申請の理由

現在の都心から成田空港への所要時間は、京成電鉄のスカイライナー及びＪＲ東日本の成田エクスプレス（ＮＥＸ）を利用して、所要時間は５１～５９分である。これは、諸外国主要空港の鉄道アクセスと比較しても長時間であり、利用者の時間短縮に対する要望は極めて強いものがある。さらに、増加する国際航空需要は、平成１２年度実績２，７００万人／年であり、これに対して第７次空港整備七箇年計画では平成２７年には４，３００万人／年になると予測されている。

所要時間を短縮し、かつ、将来予想される航空需要に対応するためには、新たな空港アクセスルートの設定が必要であり、本路線は、既存の京成本線から北総・公団線を経由して成田空港に乗り入れる路線として、平成１２年１月の運輸政策審議会答申第１８号において、目標年次までに整備することが適当である区間として位置付けられている。

このため、新東京国際空港公団、千葉県、京成電鉄、エアライン各社等により設立された第三セクター会社（成田高速鉄道アクセス株）が未開業区間（印旛日本医大駅（印旛村）・成田空港高速鉄道線接続点（成田市））を第三種鉄道事業者として鉄道施設を建設・保有し、京成電鉄株が第二種鉄道事業者として同施設を使用して運営を行うこととして、伸びる航空需要に対応するとともに、空港従業者及び沿線住民の交通を確保すべく新たに良質なルートを設定しアクセス時間の短縮を図るものである。

以上の事由により、今般、鉄道事業の許可申請に及んだものである。